

【トラック3】

まる「いらっしゃいませー！喫茶まるカフェへようこそー！」

まる「って、お兄さん！また来てくれたんですね！」

まる「嬉しいです...お兄さん、伝票見てオムライス吹き出してたもんだから、もう来てくれないかと...」

まる「お兄さんのこと忘れられなくて...マル、ずっとお兄さんのこと考えて、胸がきゅ...あつ、はい、好きなお席どうぞ」

まる「まずはお水(有料)だしますね！」

まる「お水どーん！」

まる「それで、今日は何をご注文されますか〜？これ、メニューです」

まる「そうですねえ、ちょうどおやつ時なので...」

まる「この、まる特製生クリームパフェがおすすめですよ〜」

まる「赤字覚悟でフルーツと生クリームもりもり！」

まる「お兄さんのチンコみたいにでかいパフェです、あ...失言でした」

まる「いえいえ！この前みたいなお値段にはなりませんから！」

まる「ちゃんと普通のデザート価格です、ほら、ね？」

まる「お兄さんは少しマルのことを勘違いしています」

まる「マルはお客様に癒しの時間を提供したいだけなのですよ？」

まる「お客様にご満足いただく、それが店長の勤めですからね」

まる「そういうとこしっかりしてるんです」

まる「...え？小さい文字で？...何か書いてあるって？」

まる「店长(ピー歳)と一緒に食べる場合にはオプション料金が発生します...と、書いてありますね」

まる「あっ！待って！席を立たないで！」

まる「まあまあまあ...落ち着きましょう、まだ焦る時間じゃありません...」

まる「いいですかお兄さん、マルと一緒に食べるということは」

まる「恋人みたいに隣に座って...マルが食べさせてあげることできるのです...」

まる「ちょ〜っと盛り上がって、恋人らしく体を寄せ合って...」

まる「エッチな雰囲気になってしまうかもしれませんねえ」

まる「ゆっくりと手がお兄さんの体に触れて...さわさわ、すりすりしたりい...」

まる「誤ってこぼしてしまった生クリームを、んちゅ...れろお...この舌で舐めとったりい...するかもしれませんよお」

まる「あまあく、口の中で蕩けるような時間を、まると過ごしませんかぁ？」

まる「それにい...この前いっぱい貢いで...じゃなく、ご注文いただいたのでサービスしますよ〜♡」

まる「それで、どうしますう？」

まる「一緒にイチヤイチャしながら食べるオプション、付けてみますう？」

まる「きつと、と〜っても満足してもらえenと思いますよお？」

まる「むふふっ、ご注文、ありがとうございますま〜す♡」